



筆名呈日妙寫
全

二本之内

イ 貴
2478
205



門 4
號 2478
卷 205

朱萑衰柳

送八位上守播磨守少貳
為所比去人清貞

凌雨集和菅祭用賦朱萑衰柳

他皇城陌上楊將柳而之夾

道斜疇昔榮華於不見今時

顛頭一應嗟畧

國郡圖

統日本紀云天平十年八月辛卯令天下

諸國造四郡國進

延喜左右京式云南山一千七百五十三丈東

西一千五百八丈自朱萑大路中央至東

極外畔七百五十四丈朱萑大路二十八丈

小極大路十丈南極大路十二丈東極大路

十丈大路廣十丈小路廣各四丈宮城

東西大路廣十二丈宮城南大路十七丈

一条正親町中立土御門上長鷹司下長

近衛出水勅部下立中御門櫻木春日下

大炊御門下竹屋下冷泉下三條下癡小路



後登
如人... 柳系仙洞

柳系仙洞

後百味記云賴朝柳系仙洞在甲府中納言忠光
在安四年三月廿三日讓位節會先於此所
成り也其心成仙洞

旧俗系記云この中納言忠光の宿

紹運録云後光應安七年五月廿九日出崩

柳系仙屋

九丘馬場

河海抄云九丘馬場一里西四院

肖圖云一里西三ヨリ東ハ九丘と西ハ右近也

文徳天皇孫云天安元年六月壬申遣勅使

於九丘之師令試去之乃擬帶力舍人

安騎方射

橋邊務田

古今采雅抄云下つちきり寺といふ上御下
の天としてあるは下御といふこと又新の
といふ人といふや橋邊務田の

御堂記よかけるとや

歴代編年集成云承和九年七月伴

健岑橋邊路力等及事給々曾慶

皇太子恒貞親王也其坊司曰悉配流

之橋邊務田新御伊豆國伴健宗德法酒

神祇抄云橋邊下桂御灵

△按上出雲守下出雲守延喜式七卷に因也

今其相國と云照院山有山と云町

柳町

権記云長保三年十二月十六日即忌系内之

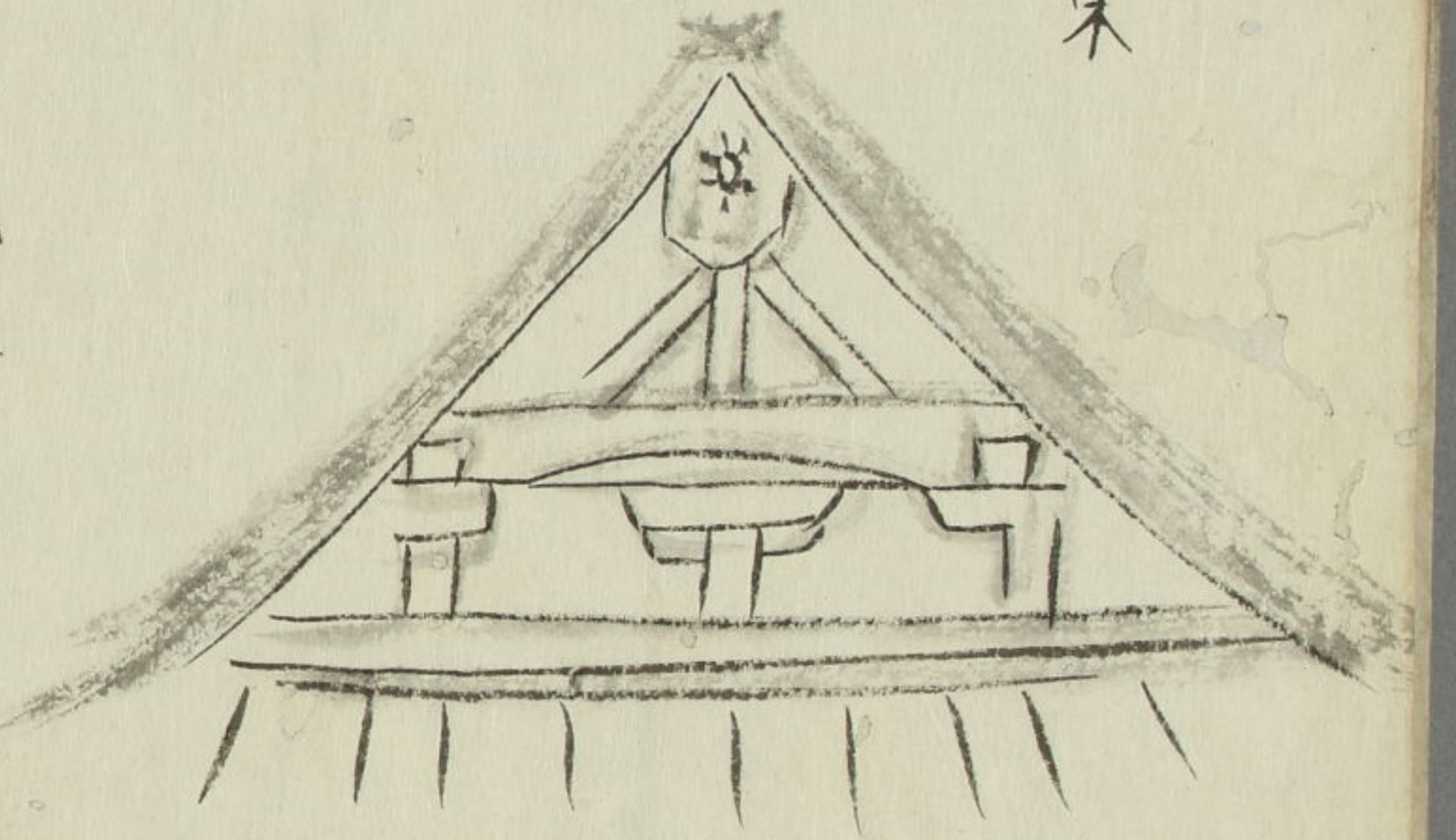
間九符御隨身伴益忠年逢

柳町追示云

外島坊

續日本紀天平勝宝八年二見何地ノ

祇園東
梅坊



内裏及中和院東西凡百十三丈

内七十三丈内裏五十七丈皇屋
四十六丈中和院東西路

建礼门東西築塙

東西各三十三丈五尺

宮城門及中和門建礼门回架一丈二尺

○紫宸殿楹圓径一尺 批江次才皇太子
元服裝束

○上戸小部 一尺二尺

○櫻橋 南階南二尺當相去十一丈

○川竹臺 方五尺許西
長橋方六尺方篲子去六尺南方

○吳竹且室 方六尺許

古ノ篲子敷

延喜宮 神式云一才四尺高柳篲子敷釘

覆金一百五十隻 徑三寸一
別呈三ツ立ッ

此外無所見以此可推知

紫宸殿

清凉殿

新成殿

○文德實錄卷九天安元年三月甲辰上皇是日諸衆僧百五十人於冷然院新成殿及太極殿限以三ヶ日轉讀大般若經

○西京

歷代編年集成云西京葛野郡又謂右京唐名長安

拾芥抄云九京限以朱雀中央

又云西京野寺町 津路 細井小路 西洞院 宇多小路

町 馬代 唯惠取小路 鳩木辻 東洞院 菅蒲小路

高山路 万路 無武小路 富小路 音町 正親筑

紫町 鷹司 松井 雷解 木蘭 春日馬寮大路

大炊 經師町 冷泉 一條京極寺号 右近馬場

或書云白土嘉門大路 土解繩 西靱負 猪道祖

小路 西洞院 又 依比小路 戸井小路 多那井小路 信濃

日本後紀云延曆十二年三月己卯朔幸葛

野巡覽新京三年十月丁卯廿日遷都

内野 今西京一條以南野 曰内野

鴨榻曉筆記云大内裏と一八畧四方小十二

門 或云ととより一向延げと内野は

ぬ地多と云

親長卿家欣合判詞一條云内野ハ新

才六帖トカ家ハ初ト漢行ハ初ト云

と云ハ大内表上ハ後の事ト云

と云

今昔物語云太奏王奏テ返ケルニ暗ク成ニ

程ニ夜ニ入テ内野ヲ通ケル夜天門ヲ過

ムトスルニ

新六帖云云云内野ト云々ト云

草根集云云内野ト云々ト云

云々ト云

云々ト云

云々ト云

西囚獄

或京程圖在雷解ヤ路南西 油少路東西 振川 西中御門 山

扶桑略記云康平六年二月十六日鎮守府將軍前陸奥守以於義貞傳囚安倍貞任散位藤井終房等三人首傳京師檢非違使等向東河受取繫其首於西獄門口記

朱萑獄 在所可尋

河海抄云李部王記曰延長四年二月十九日內裏奉修六條院六十御賀則於朱萑獄賑給物

穀倉院 八幡宮附

拾芥抄云系南朱萑西在太学西納畿內諸國銅錢無主位職田及沒官田太宰稻等諸庄物或云朱萑門前云

西宮記云或抄云大同年中始置此院

本朝續文粹云我朝宮城之左則置太学寮以崇聖師右則置穀倉院以畜米穀

八幡宮

山槐記云治承二年十一月十二日辛未寅刻自

中宮右使来告御產氣候之由着召使并諸人從者等奉神社佛寺等神社四十倉院內八幡一所內穀橘盛家申穀倉院內大多羅志女宝殿覆勤事 兵衛 府切

馬代 一作馬對

拾芥抄云西京室町号馬代

古文書 私領田事 合貳段者在右京馬

字德四至限東馬對大路南三條坊

右件乃田者源氏女先社亦傳の私領なり

源氏女判 平有桮丸判

源氏女判 平有桮丸判

西三條

拾芥抄云三條小朱萑西壬生東又瑞百

花亭了良相大臣旧跡

山小踏

拾芥抄部程曰西京山小踏万理

山城名勝志云據今西京村西小有山内村

領号大将町

侍從池

拾芥抄西京圖在七條坊門南町尻西
古事談云寬德二年二月比有白鳥長羽
四尺許身來往侍從池經件鳥鳴詞
有飯無菜

侍從池領

拾芥抄西京圖在東八西園院南七條西
五條坊小之条之間

朝野君羊載云在右京七条三坊四至
東限伏化大路西少路南限七条大路西限京
極并侍從池西堤小限六条大路
牒件地无者八条大将家所領也西三
條右改為片家傳後入道大仰
次領知

長久五年六月十日

豐繩

西京一古圖云西大宮又号解繩

明德記云播磨守三十騎計三十二條ヨリ

サレ南豊繩口三旗弁立テヒカヘタリ

名務志云豊繩解繩而西大宮也凡

宇太村

拾芥抄云或抄云西京宇多坊當斷尻
東行。名務志云今有宇多川原出後仁和寺
小宇多野院院妙心寺東

日本後紀云延曆十二年正月甲午相山
背國為野郡宇太村之地为近郊之

木辻

拾芥抄云西京東園院

。名務志云今妙心寺南門東東三町許
有木辻村

長秋記云天永四年八月十日松尾行幸

自大宮小行自二条支辻子小行自

御門東西行經常盤杜南至浮橋

山槐記云應保元年八月九日庚申今

日平路幸也路次一条西約宮城

西大宮更南止親所末西行木辻

大路より一桑山二所許更東行寄
神樂杉部屋西面

朱雀院

拾芥抄云累代後院或号四條後院
三条南朱雀西所四條山西坊東
山城名勝志云今此地有池土人呼
尼ヶ池泉石跡殘矣

日本紀略云昌泰元年二月十七日丁巳
太上天皇移御於朱雀院

菅家文草用居屬於雅人此等宮辰
殿之本主也秋水見於何處朱雀院
之新家也 中朝文釋同之

栢田殿

日本紀略云天曆元年二月戊子壬午赤
太上天皇朱雀院栢田殿拜礼衣鳥
餘情云御記曰康保二年十月十三日未
此日行幸院入自永安坊就馬場殿
乘輿移栢殿

菅家文草 惜春何到曲江以遙憶

羽觴浪上浮 栢田殿

河海抄云栢田殿在朱雀院良角
東宮殿事云後宮有安栢房床也
此故年栢殿乃後宮御所之由見九条

右丞相記

明衛往來云栢田殿以栢造殿良角
有飛泉

後撰和歌集 朱雀院の橋のたより後
事 延光朝長のりり栢田殿のひさかた
くもりしゆ 栢田殿 思ひいそひ
すべし我のなをを栢田殿につてるまきり
んとふひ 大將御息所

石上社

石上社云治承元年正月晦日朱雀院
鎮守石神明神燒亡
山槐記云治承二年十一月十二日奉使神
社 四十一 朱萑信石上

集社

諸社根元記云京中内神内集社坐
朱雀院内

島町

或京程因島町朱雀院内立西切内東
四条坊内南朱雀院具足少司
日本紀畧云天曆三年十月廿五日甲子
明日中宮可迁御朱雀院是日於朱雀
院島町以備七日令將談仁任經

学館院

拾芥抄云攝氏諸生別曹氏人補別當
以下

文徳天皇親云后儀藏天皇皇后亦与弟右

大臣氏公胡臣議用学舎名学子官臣

院勸諭子才補習經書西云云云如

日本紀畧云天德元年九月廿五日戊申

右京職言上學子館院山町豺狼啣女
三人

又云康保元年十月廿日教以学館院为
大学寮別第依番藏攝好古胡長奉狀也

酒殿社

以官修学秘抄云梅宮寺社一所二条西大

官学館院内号酒殿社

梅宮社記云攝氏公公学館院守

護神也

右勝志云云酒殿社記

宇多内院

於芥抄云主脚門山木辻在氏少孫當岳同

院法皇御所刑部卿源澄宅或抄云

京宇多内院但此少跡者所尾東行

大和物作云宇多内院の花たりに流り

替比南院の君をとりと流れあり流り

と流れありと流り右京りも宇多

宇多内院の昔より流れあり

宇太村

拾芥抄云或抄云西京宇多内院当所尾

東川

○名勝志云今多川原中後仁和寺北
宇多野原心年東

日本後紀云延暦十一年正月甲午相山背
國葛野郡宇太村之地為遷都也

崇賢門院御所

於芥抄西京園在春日南油カ路更炊師
門山西洞後京。名勝志云崇賢門院後
円融院母后廣德内府兼經女社稱梅
町殿。陸奥記云應永三十二年九月十日
丙午今日上皇御幸崇賢門院

小野皇家

於芥抄西京園在二条山四猪越之東

西三条 百五貫

於芥抄云三条山在生東又号百
花亭。良相之長四跡

三代云孫三貞於六年三月九日自天

鳥興幸右大臣藤原朝長良相西京
第狀標云喚文人賦百五貫詩

西宮 一名池真

於芥抄云四条山在在西高明御子家
○名勝志云旧跡在四条山在在田間土俗
誤呼也此須也

宇治抄云今ハむうと當依カる人
冠のつけものもろりもれハ世の人上然

鏡とかんつけをもろもろ西の四条カハ
皇太后門の西の人もす南のりとの

山より一むつ町斗なるういあり
けいふ瓜買うりて家とあつあつ化りて

ありと南北町ハ之物ハ原定と云
きくくのあつあつの上院をカ

うめて仙也もろもろをけいふのハ
御所の買ひかき南の二所ハなるもろ

きりてれいも此の代比のハなるもろ
今昔の事

或記云山科長者宅地 在西院村高
山寺東西安末此長者事 見于宇治
抄卷物御古有稱上緒主者以昔年
埋治池造家屋住之而後賣依田太納
言此地有池稱水底古沈舟近頃三丁
以脚踏水底則舟中脚今半埋之方
麥田云

日本紀畧云天祿三年四月九日太皇
權帥源朝臣之明自太宰府上陸
着葛野別屋作屋一

本朝文粹 於豐池宮一源順

永寧坊中有一仙宮 風烟幽奇 水石清麗
東則延喜之長公主卷錦帳 垂珠簾
西且應和 大納言建月 且臺排花閣 古先
傳云此地 中主奢者 与富期買 巖乃山 浸
後成海

後松云 一西宮の御存いまうちふみかく
しと向りてなすも信せざるのまの御

とありて 淺法師の 志度

松風之岸より 浅法師の 昔よりいれ
るものすうれ

西四條宮

源順家集 西の四條宮 此源順の御
つらういささ紅梅とていなりなるはけ
んこりていさささうとていさささう
とていさささ

梅つらさこれれりていさささの

いさささいささいささいささ

西院

抄卷物云 西院の西宮 東橋の右家 或云淳
和天皇 上皇 離宮の 名勝也 今西院村 東
傍 四條の西大宮 東有四跡 假山 狩跡 土人謂
飯山

類聚國史云 天長十年二月辛巳 皇帝 迁御
西院 力讓位也

續日本紀云 天長十年二月乙酉 皇帝 於淳

積太上天皇御説也此書
力集四の皇王子孫のいふ少也といて多
少の百源氏 卷第

天海天神祠

徳仁根元記云山城國葛野郡少神寺神
三座天原元年六月九日遷座也此座
延元元年八月一日始多子孔正原女子正位
右政大臣○公事根原云少神寺より
石塔 少神寺南に塔傍

二水記云天永二年九月一日少神寺の塔を
早九日也件塔聖廟即母位塔今世俗必
信此塔不知其机

穴太記云 天永九年九月 同寺より少神寺
早のころのつ伝事あり高和原寺師山直
即伊官より少神のふの寺所へより移るぬ

清和天皇

神皇正統記云天永十一年三月三日高上
天皇即位清和天皇即位大御宇降法皇御
限書

大嘗會畠

百鍊抄云に治三年上り上開白引卒
諸卿被展覧此地野斎場所
大嘗會所御紀云徳記之基の斎場所
偉此會門と云々少神と云々此所
十訓抄云天智天皇世つ〜みわつ神
此所國上座部胡命と云訓の山中より思来
の命送つ〜つ神と云々本在座と云田本
とて造る也今大嘗會の時思来の命
とて少神の斎場所を信被附例
明由記云依り少神の斎場所を信被附例
一書左傳よりある事少神の斎場所後
大嘗會の畠ニシテ解

勝とて被附判例は少神の道の
〜と云々少神の斎場所を信被附例
神の命をいふ書の中なること少神の
信の事少神の斎場所を信被附例

こけすこけすけりしはゆらん

右道と左道

抄云西条一系云後未早あたる傳
河内河云右と左傳云あたる也

尚聞云一系あるまふり東は右と西は左也
類聚國史云兼和六年二月乙丑天皇遊鏡

山師使駐蹕於右と即馬場命其驅之兼
幸騎試御馬達疾日皇還云

山抄云延喜十一年九月少野り兼光御
右馬場使御馬中庭御相見云

年中り事秘抄云寛和二年三月十日右大
臣と下系入彼之下右と馬場改南山抄

古今和一一右道のりまけの記さるの日記云
まけしうりまけさるのりまけより下馬

西宮記云由業別不在右道之傳西有別南乳
師領也

雁の屋院

拾芥抄云在あはれ山今荒無人云云

花山帝陵

名指云云汝凡川上法音寺小大抄云在
日本記云云官位云云云云云云云云

石影

抄云云西園寺東山跡山再電云松尾
奥云云云天曆度〇名指云云云云云云

今後唐武平川外傍山北河津有
大岩云鏡石其面云云先如鏡疑其石

山影水空

名指云云今角並与西有氷室谷云名
影氷室云云云云云云云云云云

山云云云云云云云云云云云云云云

一條屋院

廣行編子集云云云云云云云云云云

杉原 寺のれくろふりの家とてありや
ゆゑのまゝの寺とてありや
ありとてあり

田邑郷

和名州云田邑郷 舊縣郡の名也云仁和寺也

田邑陵

文徳天皇御宇天皇三年八月乙卯帝崩新成
天皇御宇天皇二年八月乙卯天皇
崩於此於此天皇三年十二月二十三日天皇
二年九月二十六日庚申至山城國田邑郷直原
岡定山陵之地又曰天安二年十二月十日丁酉
詔改直原山陵为田邑山陵 類聚四
諸陵式云平安殿即上元天皇至山城國
高野郡柳城城東西四町南小四町守三戸烟

神代三陵祭所

諸陵式云日向國埃山陵 天律云大陵
々神尊立日向
國無神代云可愛之山陵立日向國宮崎
日向國高屋山坐陵 天律云見尊
立日向國無陵

古事記云大乙出見尊立高千穂山
竹屋云云所

日向國吾平山上陵 天律云武鸕鷀草
不昔尊在日向國無

已上神代三陵於山城國高野郡田邑
陵南原祭之其挑城東西四町南小
一所

待賢門院陵

舊云川
或記云在法金剛院良云今法金剛
院構内小方有古墳之乃陵也
百鍊抄云公安元年八月廿二日待賢門
院崩于三条方分命弟 三十 奉法
金剛院小三昧堂

古記云壽永三年四月廿六日甲申今日依
被奉祀崇徳院可被告申御陵三ヶ
所白河院 成善 鳥羽院 安樂 待賢院

○島 兩話 貞祥 喜

下三貴御前通 大宮西 西入南側人家間
通川即有西大宮東側溝ナラム
紙登川ハ西邊川也
大宮町 妙心寺通ノ西入
町ヲ云其西町ヲ 掘河所 伝
御前通ノ西節 御前通 三ツキ
上町ヲ云ケイ町 伝今行出町云
馬門ト大宮通ノ間ニ条ハ新司付屋
舗ニテノ間溝節有之大宮ノ西側 溝
ナラムハ大宮ノ上ニ条上町ニテキリ
所ニ条ハ水ナシ今樋口町云

回祿私記

天明八年歲次戊申正月晦日癸巳寅時椽
子小巻人家失火ス且火忽幸竹所飛ヒ
又喜極高過ノ蓮池寺ニ飛テ時ニ東風
板屋ヲ破リ屋瓦ヲ飛塵天ニ接ス烈火勢此
東ノ防ハラスハ東西ニ具テハ邊ノ野南
七条西半在ノ東又東ハ鴨河ヲ限リト云
カ風俄ニ乾ニカリテ火鴨河ヲ越東南ニ出テ
春日ノ南ヨリ南ハ三条ノ東ハ新柳馬場ノ
邊ニ至テ二月朔日卯刻火止但乳方 今言
朔日ノ舊言ハ火止 燒 明古過蓮池寺ハ飛
タル木出後官中ハ燒去六半也万里ヤカ
燒又子佛光寺ハ橋又此ヨリニ官中邊ヨリ也
火有ニ高過ノ高人ノ人家ニ付佛光寺ノ
燒ル時此火ヲ成ル又飛火有ノ官大匠ノ洞
此モ亦一ツニ成火勢ハ屋ヲ五ツ也此壬生寺ヲ
燒西野ニテ燒出テ佛光寺ヲ燒ル時寺町ノ火
成リ方ヲ指テ燒度カリ四条通ヲ燒已刻

由ニ系南ヲ西へ焼行四系由北邊ハ南
ヨリサレハリニ燒キ西邊川先ッ燒東邊
川後ヤケタル所ニ此邊燒死又ハ怪我人自
伝見浮海ク四ツ半時神奈花及東西ノ
町奉行所燒此時丹波紡糸書冊
ノ燒名ヲ吹送了レ所至師ニ火アルヲ知シ
トノ西西野東ハ様子ヲ卷ヨリ大和大路へ
燒出シ加四時ヨリ南北往來祇園ヨリ出サ
六五條ヨリ南へ出ル路ナキ所甚不便シ
防數 凡千四百二十四
戸數 凡三萬六千七百九十七 但賃房其數不詳
神祠 燒地未載數不知 凡三十七
佛刹 凡二百一十
死亡 凡百四十九人
○檜市 女院御所 火スレニ稱比飛火有
テ御鳳聲ノ舎付ク又御常御殿方ニテ此
有シトゾ亥刻過日野殿方ヨリ火移リテ火火上
御文庫始御藏皆燒ル但スリ藏成り此

下鴨へ行幸此時雷雨脚以経幸及此ヲ驚
御路南門ヲ東月門邊ヲ石女堂所ヨリ
之邊ヲ下鴨御供所ヲ所上ニ拜及
ニ畏所ヲ安ス供奉 岡且下内所
ハ家存云 亦内所 實子以下 武家松平定行等
也
燒下鴨毛卷ケハ宮別前聖德太子宮
行幸

○仙洞御所 子刻後 乳所ニテ檜中ノ火ヲ
吹付大上ノ御文庫殿御屏風藏御座殿
ホ火入申上刻御川昭高院宮御幸供奉
執事右府 経隆云 以下○二月四日青蓮院宮遷幸
○大女院御所 仙洞御所同刻大上未刻此御文
庫此日火入 右大将殿 治孝卿 亭御幸 持類ニ
多焼ニ於テ 又吉田三位殿へ御幸 夜半後吉田
燒失有レ田 田モ火ノ名レ又銀閣等ノ方ヲ経サセ也
昭高院宮遷幸○三月十八日知恩院宮遷幸
女院御所 成刻大火上御文庫殿御藏火入

Handwritten notes on a slip of paper attached to the top left corner of the page.

六宮申刻梶井宮へ御幸 供奉五至 雅良 九存 公
又林在寺宮へ御幸○二月十日妙法
院宮へ御幸

○用明門院 禁中火移り于類焼庫藏
皆火入 女院御所 十日三ノ林在寺宮移り

○二月八日知恩院ノ子院へ御移り
○東宮御殿 御文庫等皆火入

○東山院御舊地 此内三ノ御藏皆火入
○御表白屋 御米荒火入但御向方米藏焼

御米藏親焼三月二年即御藏
中良藏一草御假藏上哉
御庫 一雨火移

焼所
仙洞御所 築築塙瓦通瓦塙○大女院御所
北面瓦垣但屋○寺町御門及川米田屋二草○

花山院殿○産膳殿○阿野殿○大寺殿○極
杉殿○正親下木日通屋鋪表門○表
裏山院殿南表門及西表門但扉○女院御門及

表門○五辻表門○助下由山及表門門の焼
文所

○三条西面南表門○唐徳表門○長谷
表門ノ始ノ院三ノ南側屏及門外但凡外
屏半焼

追加

碧梧亭記

○中院所新田縁の時言はく鳥丸大
納言資康のあまうつれを御製
比け少後御つゝのそ月動紙自書也
多偏いさる所ら御所造宮ありて
如くく入りたる御所後了くれを
所は如くけたるかこ御所
大御は後御所後了くれを
如くく入りたる御所後了くれを

かきつねんこふれたひひて碧梧亭と
名つて多の杜の陵う白れこ、路をせ
け後、こよは後、ふ阿婆とよひま
いふつてふるものこよはの記録を
あふれ、其の世をうれ、こよひ
その何と成か、まうなんまどけ
こして当は一革、金うすあてけ
むのま、こあ、あお、ま
そのね、ひさ、け、め、ま、あ、の、ま、り

靈元太上天皇仙院

小苑高直皇

初秋、即集、集、三、の、夜、そ、は、ふ、な、れ、の、内、は、よ
ま、つ、つ、る、もの、と、か、ん、む、と、こ、小、苑、か、る、ま、り
と、の、ま、れ、の、ま、は、う、つ、め、こ、あ、ひ、ま、れ、
う、る、の、ま、く、ま、れ、ま、り、
ま、り、こ、ま、れ、の、ま、り、
ま、り、こ、ま、れ、の、ま、り、

悠然皇

日所集云 悠然皇より神々の柳に
見せ右侍おとらまき、次、の、ま、り
み、こ、ま、れ、の、ま、り、
の、ま、り、と、ま、り、の、ま、り、
の、ま、り、と、ま、り、の、ま、り、

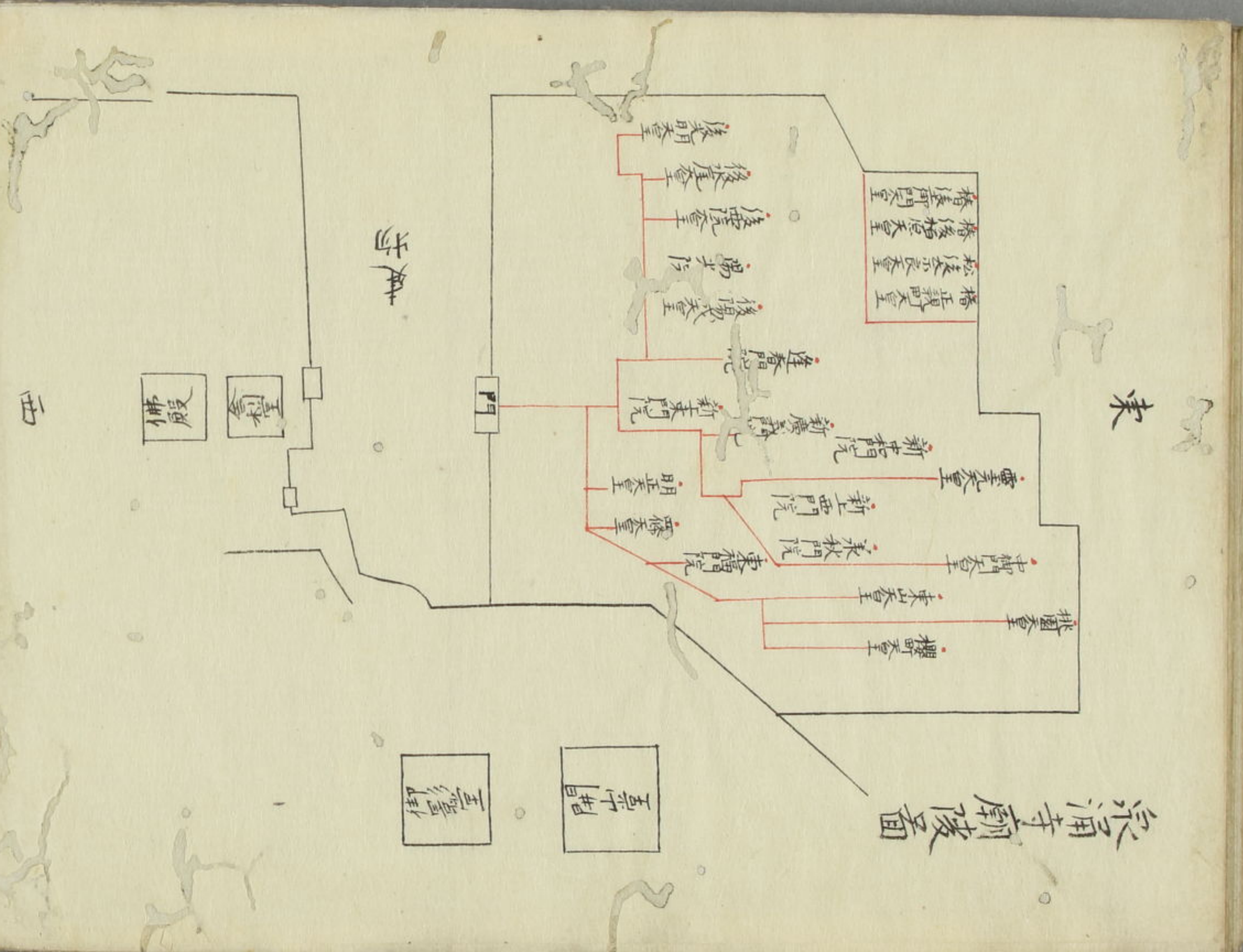
龍殿 修善寺

の、ま、り、と、ま、り、の、ま、り、
の、ま、り、と、ま、り、の、ま、り、
の、ま、り、と、ま、り、の、ま、り、

隣合軒

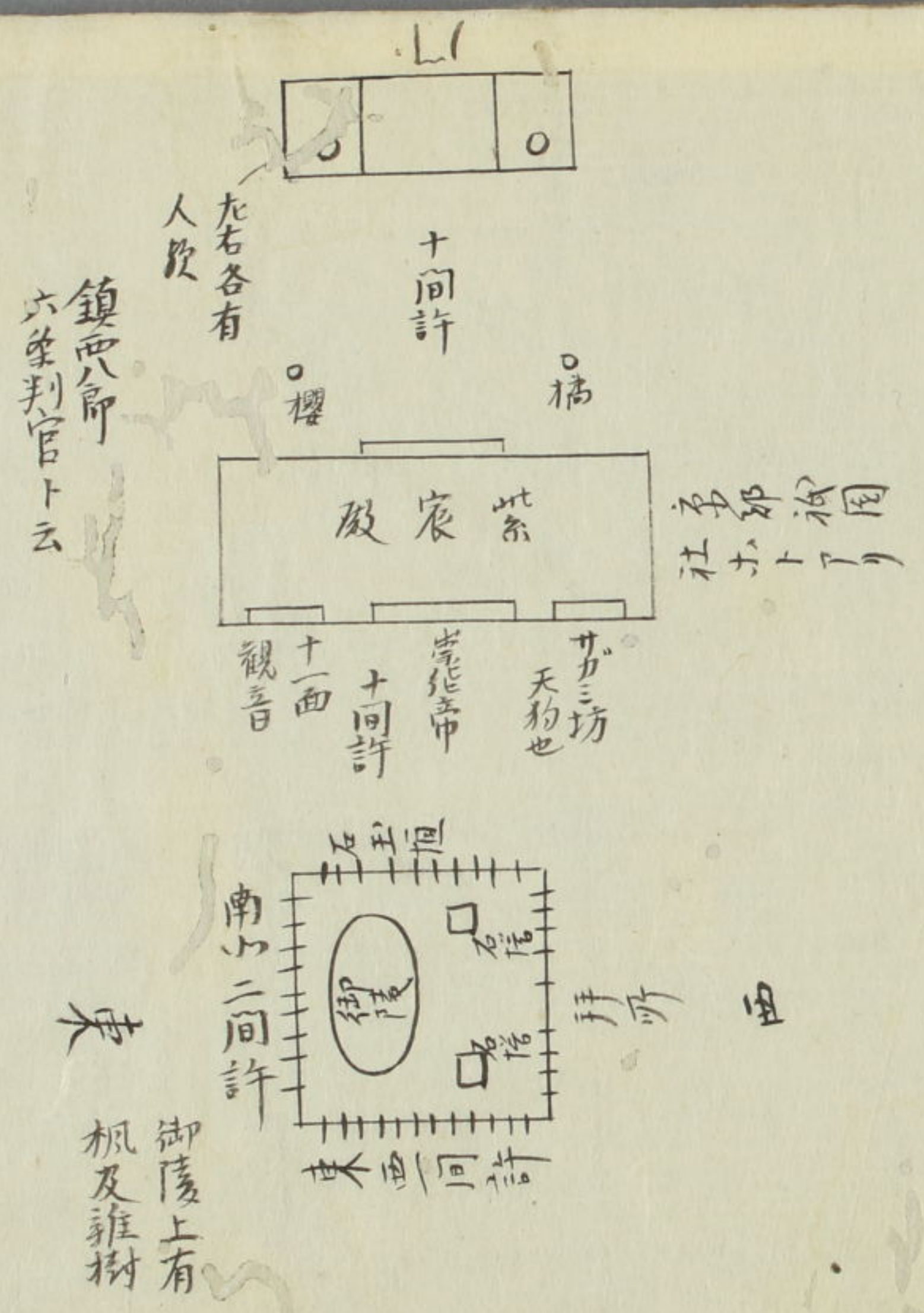
日所集云 山庄の隣合軒、その月
夜、の、ま、り、

東



宗涌寺廟後畠

崇徳帝御後
 此國阿野郡 白峯山 白峯寺 絶頂在



鎮西節
 六條判官ト云

右御陵等因福岡官兵衛話ヲ以記

土人傳云 帝始長命寺ニ着御 長命寺ニ廢址 今失其地

後在廳 高遠 孫次 氏居者 家ニ没御 孫次 氏

子孫 林田村 太郎 右衛門 ト云シ

明和年中新築

梨木町

日野弘資御隨筆云通村云梨木町ハ
多極也定在石ノ原ノ梨樹近以テ其ノ
今ノ永慶以テトノ第ノ近ノ其也ニ件ノ
梨樹アリ仍テ梨木町云〇宗道朝臣云
梨木町宗永大元前ハ路セバク今幸ツトリ
テハ往來ノ人行遠難シ火後少クアリテ
今ノ如ク路ヲ修メク大元後ノ後ノ里傍元ハ
濠井宮ノ地ニテ梨木町法梨木町ノ
傍云一也後ニ大元後ノ後ノ變テ
シナリ又濠井宮ノ里傍モ旧名名ヲ地テ
梨木町傍云

按梨木町古昔在系ノ原極也
春日ノ南今所幸町云

蠶穀ニテ酒一石一斗ノ積

十間 五百十二石五

七間 五十二万四千二百八十八石五

三二二間 五石少斗四升少斗八分ノシ

四百九十九億四百九十九万七千四百七十四石五

天明六年

〇四月

上卿 道案
天正十六年四月十九日 宣旨

豊臣吉子

且令叙従一位

蔵頭右衛門將藤原康親

△云吉子秀吉公先妣

水のまゝあり

らんらん

かゝるい後

城東神名波多利祭用人肉具
壬午別殺人以夜祠禱亦有府衛
者千人具敬鬼如此

里添ルキ合子函書多付

長亨了二戌申年正月吉日

願□寺常代

○清華

氏族排謾甲集 章說為潤列刺史

族与清華事文藝聚百九十九職

任清華

○勸修堂平緒 越後記代名

吉黄記坊塔大細之殿借進ノイ

天の五年幼修堂及別あり

○鶴岡の幡打廻り木らアリ槻ら伝

長七尺 槻の木ヶニボナシ伝可守

○康正元年二月ノ銘アル木弓 檜木ヲ以

送ル 長六尺ノ材アリ

○出羽内河田掘着伝

直菴画系 明人飛澤四三注 曾我集

○曾我季文 橋上成曾我ト称ス

蛇足 宗文 蛇子 玄仙 又銘山 越前守

一休

宗長言 吉仙子 紹祥 字卷子

直菴 二直菴 直菴ト云リ 傳云

○信長公印

一劔 平天下

○紀曾念忌日五月十八日 墓長谷寺ニ在リ 毎年秋修儀

○月菴 花モ貴クモナシ 秋ヲ得ノ収ム

三十坪 一セシノ砂糖 五升ヲ得ヘシ

○ホルトガル山モノノ葉ノ如シ

○山伏衣 色黒

篠掛 上許出ケ伝 劔脚 脚 色黒

於本堂 直三ノ幹 田杖 六尺許

八目ワラノ ガモウチハ

殆多クシク可味 湯

以巾 貝 貝ノ殼

○漆ニケケタルハ豆膏内カウヲ人ガニアタ、
蒸テ付ベシ又湯ニタテ、飲べシ

○新漆器ノ漆ノ香ヲタカニハ豆膏内ノカラ、
温カタル中へ入置へシ

○心大ヲ製ス水ニ冷メ置ニ而思鳴ナハ笑クダ
クルハ海瀧

○咽ニ骨ノ立タルハ楊實ヲカミクダキテ吞べシ
立ニヌクル

○十重摺帛 視元記

○詠物詩選 元許有壬詠糶麵詩

坡遠花金白 霜輕實便黃 杵頭鼓

退里云磴齒 雪流香 玉葉翻盤

薄銀絲出漏長 元宵貯膏火

夢里士笑南御

丙午五月十五日

半堂日失數

紀列家申 野助在馬坊南
野呂保一
十三日

通失 七ノ百ハ十三日
加失 七ノ百ハ十三日

○丙午五月十九日 正堂下備中女
主上御苗始 御師大神系乃十御所ノ

主上御所也 御所也 御所也
御所也 御所也 御所也

御所也 御所也 御所也
御所也 御所也 御所也

御所也 御所也 御所也
御所也 御所也 御所也

御所也 御所也 御所也
御所也 御所也 御所也

五月十九日 若菜
聖判奉授笛片 祀先嘗授也 命教人萬年久廢
德令厚有 命威 聖恩法一律私記

聖朝少吏才全錄位優遊 十年 州木同而沾口 勢
衣冠特名 王 尊前

御青子入青子 御青 薄枝何代 葉枝何今日
幸逢良慶改鞠 郎 委 委 委 委

大津多費 為 日 州

○漆ニケケタルニ豆有角カヲヲ人ハダニアタ、
蒸テ付ベシ又湯ニタテ、飲べシ

○新漆器ノ漆ノ香ヲ去ルニ豆有角ノカラノ
温カナル中へ入置へシ

○心太ヲ製多水ニ冷メ置ニ西田鳴十六心タクダ
クルニ海羅

○咽ニ骨ノ立丸ハ椽ノ實ヲカミクダキテ吞へシ
立ニヌル

○十重摺^{スギ}帛^ラ 視元花

○詠物詩選 元許有壬詠粗麵詩

坡遠花^全白 霜輕實便黃 杵頭麩

退里云磴^全齒 雪流香 玉葉翻盤

薄^全銀絲出漏長 元宵貯膏火

遂里士笑南御

丙午五月十五日

半堂日失數

紀列家^中野^昭助^力馬^持南
野呂保一
十三日

通失^とる^る三^の十^三年

也失^とる^る千^の五^の年

○丙午五月十九日 正屋下備中女^キ九^ノ女

印紙

五月廿七日

朝夕の各場^アといそく^クのた^ル身^トとや
すてハ^ハは^ハら^ハめ^ハる^ハや^ハな^ハき^ハ

○新^ノ葉^ノ新^ノ葉^ノ新^ノ葉^ノ 十八日

○人魚 紀州和^ノ和^ノ和^ノ和^ノ 重^ニ千^ノ五^ノ斤^モ
アリ上^ノ又^ノカ^ノノ^ヲナ^ハ伝^ハ肉^ハ心^ハ太^ニ似^タリ

○鴨^ノ浦^ノヨ^リ伝^ハ魚^ハ黒^ハナ^ハズ^ニ似^タリ
カツウラノヨリトテヲナ^ハ止^ハ月^ハク^ハエ^ハ人^ハ名^ハ

エトス

長明無名抄

芳くあき事

或人云ありしう年以すこむる家路の
たねよりあき事よりあき事なり

葉平朝片名

葉平朝片名中の家ハ三條坊門より南に
倉より西に倉表より通くまて竹
柱なるもあき事なり似すゆき相とり
よして竹よりあき事なり人のあき事より
二例の柱乃板よりあき事なり

用防内竹あり 用防ち平株仲女
後よりあき事なり

用防内竹あり 軒のあき事なり
あき事なり 竹のあき事なり

あき事なり 竹のあき事なり
あき事なり 竹のあき事なり
あき事なり 竹のあき事なり

○紀録新始 後三條事 延久三年 結目記

○天平宝字三年正月改年お載 結目記
松永貞徳 号道達新 長弘丸明心居士

○天平三年 甲子 甲日 甲日
甲日 甲日 甲日 甲日 甲日 甲日

○唐劉恂 嶺表録異 一本

嶺表ノ中々ニ列ノ三粟有リ
維暮 粟穀 相トスル

○邦身粟私ニ得ベカズトスモ亦唐
ニテラフモノナラン

○丙午六月十六日

主上御月見依月蝕十七日ウ修
右月執次仲之間分十列研ヲ献上ス

嶽 陰行 三行 風鳴 女地 土丸 土丸

○西土陶器俗南京ノソメ付ト云其鏡新
イナリノ如ク至テ堅クソメ付画モ古キイナリニ似

タルアリ此福別焼シフナドホツル一ナシ

祥瑞五郎大夫

古ソメ付 アッデゴス

次ソメ付 ウステゴス

次祥瑞

次ウレシキ

次普通ソメ付

○新伝 ○十ダ茶ワニ燈下

又カタテ ミンバア

福列 シンバア

右地南系ヨリモモク
福列ヨリモ遠伝何れ地
方ソノ事ナシ

丙午六月二日徳政物社所傳驛録内

敷覧 御所おちゆいふ推テ年内

○尾田の殿、或人其入相、徳ノ銘ヲ致シ

レハ風早殿、相後ニテ名ツケテ贈ラレシ

後物也 ちかみ成事

人のほほほと志のひてうもろく
いそしそいゆりまはさみゆき

ぬきぬき人かひ月一団けをさか

かののそとかりてこじん

依テ かののそと銘ス

中務卿より杉年を渡らる事致しし白キ

多石名ニ炊手とせしけしモアヤシムベカス

○天明三年春日三聖西あちゆい殿杜若草

題ニカキツダノ款ヲ御出アリシカバコレハイカニ

ト尋テル、杜若草ハカキツハタニテハナキカト云

テレシ一声山鳥曙雲かニ申ハタテニ山鳥ノ

声モ今更思ヒ出ラレ侍ル

○天明ノ初年ノ比ニカ而後郭云云安部一モミ岩

ノ跡ハ夕立ノ名ゴリス、こモモミ岩ヨリ一声モラズ

山子親 彦彦阿依因何 合志ニテ清書アリ

シラ後ニ明ノ山井の彦彦親セラレテタタミヲムラ

而ニ改ラレタリ

○天明四年 皇カト云ヘ又中使後ノ掉麻ノ尾

上ノ月ト御カアリシノ院 所点ニテ清書

リシカキ事ハ格別ニ五海法モナカリキ

○山跡ノ御着林鳥宿唐徳阿依因後夕々

少神ノ姿ヲ朱ラシハスノ鳥カ子クアララ
ソフスノ鳥ノアラソヒニシテ歎ナルスノアルカヒナキ鳥
ガトノミナリ

○中務ツ宮ノツ統鳥ガ音ハ鳥鐘ニサシハ
鳥ガ子云カハ清テヨムトゾ奇怪ト云ヘシ

○樞本カハ仙ノ如ク高枕ニ坐ル者カ之ノ何カ
テ法ト云フニシテ塔ノ沙佐アリテカカ立ワル

○天明七年丁未正月卯多路卯花鳥鳥ヲ
唐橋加歎尊ヲトドリ鳥トアリカキテ
唐橋ノ今カ歎他例ニカ

○錦出後歎 手カ子波カカイカ、
冷泉カ歎 白人カシノキカシモノ

○冷泉カ歎 白人カシノキカシモノ
子親ハ暢山清鳴カカカノナカハ後ノ川
立カテカサラモトテカホシカカカカカ、

○冷泉カ歎 白人カシノキカシモノ
子親ハ暢山清鳴カカカノナカハ後ノ川
立カテカサラモトテカホシカカカカカ、

○冷泉カ歎 白人カシノキカシモノ
子親ハ暢山清鳴カカカノナカハ後ノ川
立カテカサラモトテカホシカカカカカ、

○冷泉カ歎 白人カシノキカシモノ
子親ハ暢山清鳴カカカノナカハ後ノ川
立カテカサラモトテカホシカカカカカ、

○冷泉カ歎 白人カシノキカシモノ
子親ハ暢山清鳴カカカノナカハ後ノ川
立カテカサラモトテカホシカカカカカ、

○冷泉カ歎 白人カシノキカシモノ
子親ハ暢山清鳴カカカノナカハ後ノ川
立カテカサラモトテカホシカカカカカ、

○冷泉カ歎 白人カシノキカシモノ
子親ハ暢山清鳴カカカノナカハ後ノ川
立カテカサラモトテカホシカカカカカ、

○冷泉カ歎 白人カシノキカシモノ
子親ハ暢山清鳴カカカノナカハ後ノ川
立カテカサラモトテカホシカカカカカ、

○冷泉カ歎 白人カシノキカシモノ
子親ハ暢山清鳴カカカノナカハ後ノ川
立カテカサラモトテカホシカカカカカ、

○冷泉カ歎 白人カシノキカシモノ
子親ハ暢山清鳴カカカノナカハ後ノ川
立カテカサラモトテカホシカカカカカ、

○冷泉カ歎 白人カシノキカシモノ
子親ハ暢山清鳴カカカノナカハ後ノ川
立カテカサラモトテカホシカカカカカ、

○冷泉カ歎 白人カシノキカシモノ
子親ハ暢山清鳴カカカノナカハ後ノ川
立カテカサラモトテカホシカカカカカ、

右所後七夕七五所安十二女院御
移徙

○七多 正月者及土間碑 十一女銘位

乙丑保二年
杏山王韃南居士
酉三月五日

大明國
福建道
福州府
福清縣
六親法界寺

右墓里谷此寺名、あり、生居士明末、又、
十数、の、一、張、山水画アリ、
日、沙、大、邦、来、り、て、何、所、住、セ、シ、ソ
○土、流、家、系、所、取、活、物、子、モ、ニ、ク、ビ、玉、入

右函ノ書付

宝永四年丁亥林鐘四日

一、條、檜、中、納、言、兼、香、取、即、目、見

御前、燕、画、御、程、衣、美、拜、領、云、々

け、物、子、美、明、大、三、條、了、上、下、々、々、満、ハ、方

建内記 嘉吉元年 四月 晦 宿集廿四 青、丁

被、石、置、直、林、系、素、此、代、八、石、及、自、長、橋、局、到

来、送、清、大、外、記、了、被、清、名、進、局、到

了、後、日、中、人、々、淳、清、外、史、見、送、

○昔土藏ト云ハ今テノ質屋ニ建内記あり

ナ、望、所、者、土、藏、山、上、土、存、ナ、ド、アリ、流、出、ノ

名、目、モ、アリ、樹、人、々、流、々、藏、ハ、リ、土、存、使

スルモノ

○觀了ノ傍高ヒニ此建内記あり

觀了ノ商人法師與人来一アリ

○右院殊人ナカニダケテ話

清人碑刻ノ文字ノ中へ石書ヲ入ビイド口

ナニ流カケル其象家ナド皆礼

○蒲葦 大島ニ産スコバ伝

○トビン産テニテ 千ヨカ伝 疏人誤テ千ヤカ

ト云ツサケイ 葉家ト書クイ

